

自立活動 学習指導案

対 象：小学部 4名

指導者：(T 1) (T 2)

(T 3) (T 4)

1 題材名 「揺れてあそぼう」

2 題材の目標

- ・様々な揺れをいろいろな姿勢で体験し、姿勢を保持したりバランスをとろうとしたりして自分から身体を動かすことができる。
- ・教師や友達と一緒に活動を楽しむことができる。

3 児童と題材

本学習グループは小学部1年生1名、3年生1名、4年生1名、6年生1名、(男子3名、女子1名)の計4名で構成されている。全員が車椅子またはバギーを使用しており、日常生活全般において支援を要する。意思表示については、不明瞭ながらもいくつかの単語を話す児童から、表出言語はないものの、表情や発声、身体の動きで表現する児童まで、様々である。運動面については、歩行や、座位・立位等の姿勢保持を自力で行うことが難しい児童が多く、自力のできる児童であっても不安定さが見られる。しかし、4名全員が共通して、教師とスキンシップをとったり全身をダイナミックに動かしたりすることを好み、遊具を用いて揺れる感覚や風の心地よさを味わう学習では、表情や発声、身体の動きなどで楽しさや「もっとやりたい」といった意欲を表出する姿が見られた。また、担任とのかかわりが中心ではあるが、4月から週2、5時間このメンバーで学習してきていることもあり、友達の活動の様子に目を向け、笑顔になる児童もおり、友達への意識が芽生えてきている。

本題材では、大型遊具で様々な揺れを体験することを通して、身体が揺れる感覚を楽しんだり心地よさを感じたりしながら、児童が自ら身体を動かそうとする気持ちをもったり、バランスをとろうと意欲的に身体を動かしたりする姿を引き出すことをねらっている。身体の動きに不自由な面がある児童たちにとって、身体全体が揺れるという刺激は自ら作り出すことが難しい刺激である。しかし、身体の揺れ感覚を経験することは、ボディイメージや姿勢保持の力、平衡感覚やバランス能力の向上を図るために、本児たちにとって必要な活動である。そこで本題材では、上下、左右、前後など様々な揺れを体験できるように、トランポリンやウォーターベッドなどの大型遊具を用いる。トランポリンやバランスボールは、床面での活動に比べていろいろな姿勢を保持しやすく、児童が心地よい上下動を感じながら首や体幹の支持力を高めることができる。また、エアートランポリンやウォーターベッドは、感触が柔らかいため、児童がリラックスして乗ることができ、揺れや空気、水の圧力を全身で感じ、自分の身体部位を意識することができる遊具である。さらに、これらの遊具は児童一人一人に合わせて揺れの強弱を調整しやすいため、児童が安心して姿勢を保持したりバランスをとったりすることができる。以上のことから、大型遊具を用いて揺れを体験する活動に繰り返し取り組むことで、全身の揺れ感覚を十分に味わい楽しんだり、バランスをとろうと自ら身体を動かしたりすることができるようになり、満足感や達成感、また、「楽しい」「もう一度やりたい」などの気持ちを意欲的に表現することにもつながると考え、本題材を設定した。

上記のような姿を引き出すために、指導にあたっては次の点に留意する。

- ・児童が安心して活動できるように、児童の表情を観察しながら児童の姿勢保持や動きを補助する。その際、適切な位置や方向から観察や補助できるように配慮する。
- ・姿勢を保持したりバランスをとったりする動きを引き出すために、初めは弱く揺らしたり、一度揺らした遊具をいったん止めたりしながら、自発的な動きが出るのを十分に待つ。自発的な動きが見られたときにはを大いに称賛したり、他の友達や教師にも伝える場を設けたりして、児童の意欲を高める。
- ・友達への意識をより高めることができるように、毎時間教師や友達と円座になって歌を歌いながら直接触れ合ったり、一緒に遊具に乗ったりする場を設ける。
- ・児童が個々の興味やペースに合わせて活動することができるように、トランポリン、エアートランポリン、ウォーターベッド、バランスボールの4つの遊具コーナーや休憩できる場所を設ける。
- ・児童の動きや表情などを共通理解できるように、授業者間で互いに伝え合う、各遊具での支援の仕方や人数などについて事前に決めておくなど、実際の授業における授業者の役割を明確にする。

4 指導計画（総時数11.5時間）

活動名	主な活動内容	時数
(1) いろんな揺れを感じよう楽しもう	・トランポリンやバランスボールなど様々な遊具に乗り、上下、左右、前後、強弱などの揺れを味わう。	5時間
(2) いろんなポーズで揺れてみよう	・様々な大型遊具に、腹臥位、仰臥位、側臥位、あぐら座位、四つ這いなどいろいろな姿勢で乗り、揺れを体験しながら、姿勢を保持したりバランスをとったりする。	6.5時間 (本時 6.5 / 6.5時間)

5 題材における児童の実態及び題材の目標

	個別の指導計画の重点目標	本題材における実態	本題材の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任を介して、他学年の友達や教師に触れたり注目したりしながら、ダイナミックな活動やスピード感のある活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> トランポリンとエアートランポリンを好み、体が軽く浮く程度の揺れに、笑い声を立てて喜ぶ。 大きく揺れた場合には、目をきつく閉じて怖い気持ちを表す。 学級担任が視界から消えると、不安そうな表情になり、首を回して探す。 	<ul style="list-style-type: none"> あぐら座位で、自分で上体のバランスをとろうとしながら揺れることができる。 気に入った遊具で、もっと遊びたい気持ちを発声で伝えることができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> 友達や教師の声を聞いて一緒に活動している人がいることを感じ取り、かかわりを楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 床面では仰臥位の姿勢から教師が手をさしのべると、頭を持ち上げ、バランスを取り、踏ん張って起き上がり、座位を取ることができるが、遊具の上では難しい。 弱い揺れを好み、頭に腕を組んでリラックスしている。揺れが強くなると「ウー」と声を出し、不快を伝えてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 揺れを感じて、手足に力を入れたり頭を持ち上げたりしてバランスをとろうとすることができる。 友達や教師とやりとりしながら遊ぶことで、自分の要求を発声や表情で表現し、かかわりの楽しさを感じるができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ダイナミックな活動を楽しみながら座位や立位などの姿勢を保持したり様々な身体の動きを経験したりし、全体的な身体のバランス能力を高めることができる。 友達が活動している様子を目で楽しんだり、自分から友達にかかわろうとしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> トランポリンやエアートランポリンの強い上下の揺れには、目をつぶり不安な表情を表す。 トランポリンでは、座位・立位の姿勢で教師と一緒に手をつないで、弱い揺れにはバランスを取ろうとすることができるようになってきた。 友達の活動の様子を見たり、近づいたりする様子が見られるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上下左右の揺れに対して一人で座位や立位の姿勢を保持したり、身体のバランスをとったりすることができる。 友達と一緒に遊具に乗り、友達の様子に目を向けることができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> 体全体を動かすダイナミックな活動を通して、感じたことを表情や発声で表現したり、首や体幹の支持力を高めたりすることができる。 友達とのかかわりや教師とのやりとりを楽しみながら活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーターベッドでは、あぐら座位や背臥位で乗ると、自分で体を動かして揺らそうとしたり、バランスをとろうとしたりする様子が見られる。 友達の活動の様子に目を向けたり、背臥位で遊具に乗って教師が揺らすと、声を出して笑い、もっと揺らしてほしいという気持ちを発声で表現したりする姿が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊具の揺れを感じながら、あぐら座位を保持することができる。 友達が遊んでいる様子を見て笑ったり、「一緒に遊びたい」「もっと揺らしてほしい」などの気持ちを視線や指さし、表情や発声で教師に伝えたりすることができる。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・上下・左右などの揺れに合わせて、バランスをとろうと自分から身体を動かすことができる。
- ・友達の様子に目を向けたり、教師や友達と一緒に遊具に乗ることを楽しんだりすることができる。

(2) 個別の目標と評価 (○達成できた △目標・支援に検討が必要)

A	B	C	D
・エアートランポリンで、教師の「もう一回やる？」の問いかけに、右手を挙げたり、「あー」と発声したりして、遊びたい気持ちを表すことができる。	・座位で揺れを体験し、左右の揺れに合わせてバランスをとろうと手を動かすことができる。	・トランポリンの弱い揺れに対してバランスをとり、歌が終わるまで一人で立位を保つことができる。	・遊具の揺れに対して体幹でバランスをとりながらあぐら座位を保持することができる。 ・「もっと揺らしてほしい」という気持ちを「ダン」という発声で教師に伝えたり、楽しさを笑顔で表出したりすることができる。

(3) 学習過程

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援				準備物
		A (T2)	B (T3)	C (T4)	D (T1)	
9:30	1 体操・ストレッチをする。	・動かす部位を意識できるように、始めに言葉で伝えたり手で触れたりしながら、個に応じた体操をする。				・マット ・シート
9:35	2 はじまりの活動 ・あいさつをする。 ・はじまりの歌を歌ったり聴いたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が友達を意識したり、目を向けたりしやすい位置になるように工夫する。 ・児童が授業の始まりを意識し、活動への期待感を高めることができるように、元気に始まりの歌を歌う。 ・はじまりの歌を身体の動きでも楽しめるように、児童に応じて強さや大きさ、方向に配慮しながら、児童の身体を揺らしたりタッピングしたりする。 ・後方から支援していても児童の表情や動きを把握できるように、T1～4は互いに児童の様子について伝えあう。 				・マット ・シート
9:38	3 「しあわせならてをたたこう」の歌に合わせて教師や友達と触れ合う。 ・手をたたく ・紐を握る ・友達に触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がリラックスした姿勢で、はじまりの歌を聴くことができるように、T2は後方から上体を支え、歌に合わせてゆっくり身体を揺らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌の始まりが分かるように、T1の「せーの」の言葉がけに合わせてT3は肩にトントンと触れる。 ・自分から進んで身体を揺らすことができるように、T3は楽しい雰囲気です歌を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座位を保持し、活動が始まる期待感をもつことができるように、T4は後方から支持し、表情を見ながら一緒に歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の活動の様子が見えるように、T1は児童の後ろに座る。 ・活動の始まりを意識し、期待感をもつことができるように、表情を見ながら耳元で歌ったり、体に触れたりする。 	・鈴付きの紐
9:43	4 いろいろな大型遊具で遊ぶ。 ・トランポリン ・エアートランポリン ・バランスボール ・ウォーターベッド ・小トランポリン	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動を思い出したり、遊具で遊ぶことを意識したりすることができるように、T1は遊具の演示をする。 ・児童が揺れを安心して受け入れ、心地よさを感じることができるように、揺らす前に声をかけたり、表情を確認しながら揺らしたりする。 ・児童が姿勢を保持したりバランスをとったりしやすいように、揺れの強弱を調節しながら適切な位置や方向から姿勢保持や動きを補助する。 ・児童が姿勢を保持したりバランスをとったりしようとして自発的に身体を動かすことができたときには、大いに称賛し、意欲を高める。 ・児童の様子を見ながら、必要に応じて休憩を取る。 				・トランポリン ・エアートランポリン ・小トランポリン ・バランスボール ・ウォーターベッド ・マット ・滑り止めシート
		<ul style="list-style-type: none"> ◎児童の「もっと遊びたい」という気持ちを表すサインを引き出すために、T2は揺れが止まるたびに児童の自発的な動きを観察し、気持ちをくんだり代弁したりする。 ・児童のあぐら座位でバランスをとろうとする動きを引き出すために、T2は揺れの強さを調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T3は児童の正面から両手を支え、これから揺れることを伝える。 ◎身体が傾いている方向が分かるように、T3は肩をタッピングして伝える。 ・好きな遊具であるウォーターベッドの揺れをより楽しみ、発声や表情で表現できるように、T3は歌を歌ったり「おしりふりふり」などの言葉かけをしたりしながらゆっくり揺らす。 ・活動を楽しんでいる様子が見られたときには、T3は「もっとやりたい？」とたずね、表情や身体の動きで意思表示するのを待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して揺れを感じることができるように、T4は始めに児童が安心できる姿勢である背臥位や座位で一緒にトランポリンに乗る。 ◎一人で楽しみながら立位を保持できるように、T4は向かい合って手をつなぎ、好きな歌に合わせて揺らし、少しずつ手を離していく。 ・T4は、児童がやりたい遊具へ自分から移動するのを待ったり、楽しく遊ぶ演示して誘ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組むことができるように、T1は遊びたい遊具はどれかを児童にたずね、視線や指さし、発声などの意思表示を確認してから取り組むようにする。 ◎安心してあぐら座位を保持できるように、T1は児童の後ろまたは横に座り、強弱を調節しながら揺らす。 ◎遊具での揺れを楽しみ、「もう一度ゆらしてほしい」という気持ちを表出する姿を引き出すために、T1は歌を歌いながらリズムに合わせて遊具を揺らしたり、ときどき揺らすことをやめ、児童の意思表示を待ったりする。 	

10:10	5 エアートランポリンにみんなで一緒に乗る。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がみんなで一緒にエアートランポリンに乗る活動が始まることを意識できるようにT1はBGMを流す。 ・リラックスして集団を意識したり雰囲気を楽しんだりすることができるように、児童が楽な姿勢や好きな姿勢をとれるように支援するとともに、友達が近くにいることを語りかけ、目を向けたり触れたりできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心してエアートランポリンに乗っていることができるように、T2は児童の視界に入る位置にいることを心がける。 ・リラックスして揺れを楽しむことができるように、T3は「気持ちいいね」と優しく言葉かけをしたり、身体に触れたりする。 ・友達を意識できるように、T3は「～さんと一緒だね」と言葉をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・エアートランポリンに友達と一緒に安心して乗ることができるように、T4は近くにいて見守ったり手をつないだりする。 ・一緒に乗っている友達を意識できるように、名前を伝えたり、注目しやすい姿勢を支援する。 ・安心してエアートランポリンに乗っていることができるように、近くにいて見守ったり手をつないだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット ・エアートランポリン ・CD
10:15	6 おわりの活動 ・頑張り発表をする。 ・おわりの歌を歌う。 ・おわりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が友達を意識したり、目を向けたりしやすい位置になるように工夫する。 ・友達を意識したり、満足感や達成感を感じたりすることができるように、本時で頑張ったことを発表する場を設け、発表者を拍手や言葉かけで称賛する。 ・児童が授業の終わりを意識し、リラックスした気持ちで授業を終わることができるように、優しい声で終わりの歌を歌う。 ・おわりの歌を身体の動きでも楽しめるように、児童に応じて強さや大きさ、方向に配慮しながら、児童の身体を揺らしたりタッピングしたりする。 <p>※ 姿勢のとり方や歌の場面での支援については、T1からT4は「はじまりの活動」と同様の支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マット ・シート

※◎は本時の目標を達成するための支援

(4) 評価の観点

・児童側

- ・様々な姿勢で揺れを感じ、姿勢を保持しようとしたり、バランスを取ろうとしたりして自分から体幹や四肢を動かすことができたか。
- ・注目や発声、笑顔、タッチなどで、友達や教師と一緒に活動することの楽しさを表すことができたか。

・教師側

- ・姿勢を保持したりバランスを取ろうとしたりして自分から身体を動かす姿を引き出すための揺らし方や支援の位置は適切であったか。
- ・友達や教師と一緒に活動することを楽しめるような働きかけがなされていたか。

※ 配置図

